
他愛のない日常

櫛方

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

他愛のない日常

【Nコード】

N4155D

【作者名】

櫛方

【あらすじ】

OL、水原麗に訪れた真冬の出会い。

出逢いはバチツと突然に

バチツ

デスクの引き出しを開けようとした時、冬特有のそれはやって来た。

「うつ」

彼女 水原麗は、思わず声を上げてしまった。

「どうしたんですか？」

隣でパソコンのキーを叩いていた後輩が、手を止めて尋ねる。

「いえ、ちょっと、静電気がね」

「静電気？このオフィスに金属、ありましたっけ？」

「多分、この引き出しの取っ手の部分だと思うわ」

「そう言えば先輩、『静電気防止リング』って、ご存知ですか？」

「知らないわ。なあに、それ？」

「これです。ほら」

彼女は、手首のヘアゴムのような物を見せた。ピンク色でかわいい。

「これを付けると、バチツと来なくなるんです。私、これ付けてから一回もバチツとなってませんよ」

「ふーん。それどこで売ってるの？」

「百均とかで普通に売ってますよ」

「ありがとう。じゃあ今日買ってみようかしら」

麗は、仕事帰りにオフィス近くの百均に行く事を決めて、仕事に戻ったのだった。

午後7時になったが、麗はまだオフィスにいた。課長に捕まってしまい、一人残業をさせられていたのだ。

「書類、できました」

やっと完成した書類を課長のデスクに置き、様子を伺う。課長は、

ふむ、と言って一通り目を通すと…

「良いだろう、帰っていいぞ」

やった！奇跡的に文句言われなかった！

「ありがとうございます！」麗はそう言つと、また課長に捕まってしまうように、全速力でオフィスを飛び出した。

会社の外へ出ると、途端に刺すような冷気に襲われた。彼女はブルツと体を震わせ、足早に歩きだした。

一人になっちゃったわね、麗はそう思い溜息をつく。全くあの課長は、席が近いからって私にばかり仕事押し付けるんだから…席替えとかしないかしら、小学校みたいに。しないわよねえ…

そう思いながら、白い息を吐きつつ歩いていたら、うっかり百均を通り過ぎてしまった。そうだ、ここであのゴムを買わなくちゃ…

彼女は思い出し、店に入っていた。ゴムは意外と早く見付かった。多分時期物の商品を扱っているのだろう、一番見やすい位置の売り場にそれはあった。

彼女は最後の一個だったレモンイエローのゴムを買って、その場ですぐに手首に付けた。レモンイエローは、彼女によく似合っている。彼女はわざと、ドアの金属部分に指先で触れてみた。

あ、バチツと来ない。

彼女は思わず微笑んで、店を後にした。

だが、駅に着いて、何気なく階段の手摺りに手を触れた時、

バチツ

再び来た。

あれ？やっぱりゴムつけてても、バチツと来る事はあるのかしら。

そう思つて何気なく手首を見たら、あるはずのゴムはそこになかった。

多分、歩いている間に落として来てしまったのだ。一瞬探しに行くうかとも思つた。でも、と彼女は思い直す。どうせまた百円で買えるし、それに寒いから…

彼女は諦めて、そのまま帰る事にしたのだった。

駅のホームで電車を待ちながら、溜息をつく。

また買えるとはいえ、麗はちょっと残念だった。レモンイエローのゴムは、あれ一個しかなかったので、明日行つてもまたあるか分からなかったからだ。そんな事を思っていたら。

バチッ

まただ。何かと思つたら、隣の人の手が原因だったようだ。人にも静電気つて溜まるのね、そう思いながら視線を上げると

バチッ

その男性と目が合った。次の瞬間、ビリビリと衝撃が走る。二人は一瞬、その場に立ち尽くした。そして

「あ、あの、よろしかったら、次の駅でお茶でも…」甘めの声がそう言つた。彼女は心の中でガッツポーズをした。そして、

「ええ、喜んで」

相手をシビレさせる、眩しい笑顔で、そう言つた。

出逢いはバチツと突然に（後書き）

人の手でバチツと来る事って、意外とあるんですよ！私も何度もあります。

さて、この話ですが、情けない事に、少し長めの話が一本、練っていないアイデアが一つ用意してあるだけで、その先の予定は全く決まっておられません…
先行き不安な話ですが、読んで下さってる方もしいらつしゃいましたらご了承下さい。

お読み下さり、本当にありがとうございます！評価・感想お待ちします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4155d/>

他愛のない日常

2010年10月11日07時59分発行